

食アメニティ・コンテスト
国土庁長官賞を受賞した

かや
加悦富美恵さん
(竹野町)



「但馬牛・花ハスの山里御前」但馬牛の炭火焼き、ハス豆腐、ハスの団子、ハスの実入り茶碗蒸し、三原そば、季節の野菜、山菜料理など10品



昨年11月、竹野町三原にある郷土料理店「北野屋」のコース料理「但馬牛・花ハスの山里御前」が平成12年度食アメニティ・コンテスト(現在の国土交通省など主催)の女性起業活動部門・国土庁長官賞を受賞しました。このコンテストは、地域の食文化の継承・開発及び快適な食生活環境の実現をめざし活動している人グループが集まりおこなわれるもので、全国から出品された料理の頂点に輝いたのです。

北野屋がオープンしたのは、平成5年のこと。口コミで広がった評判は、「コソコソと地道にがんばってきた加悦富美恵さんの姿と重なります。

「当時、私の住む竹野町三原は嫁が来ない、都会に人は出てしまう。このままでは、人がいなくなってしまうのではないかと。どうにかしなくてはという思いにかられ、農業普及センターに相談しながら、主人といっしょに考え、食べ物屋をすることにしました。でも、調理師資格は持っていたものの、料理の苦手だった私は、あまり気乗りはしなかったんですよ。一番大変だったのはメニューを決めることでしたね。但馬牛を飼っていますから、おいしい但馬牛を食べてほしいと思いました。家の前でつくっているハスや地元の山菜も料理に活かしたいと思い、試行

錯誤の中で「コース料理、但馬牛・花ハスの山里御前」が生まれました」とオープン当時を振り返る加悦さん。

「但馬のおいしいものを食べられる店」といわれるようになったと思い、「ここでしか食べられないものを出したいと考え料理をつくりましたが、ほんとうにこの料理でお金がもらえるのだろうかと不安だったといいます。最初にお客様から料理代金をいただいたときは、何ともいえない気持ちだったか。

ハスはダイエットや肌荒れ、便秘、肝臓病にも効く、医薬的効果を持つっており、花、実、葉、根(レンコン)まですべてを食すことができます。ハスの花が咲く毎年7月にはハスマつりを開催し、たくさんの方々が訪れています。

「大きな賞をもらって、日が経つことに、賞の重さを感じています。初心を忘れないようにがんばっていきたくいですね。ここに来てもらって、三原の景色や花を見てもらい、おいしい料理に舌鼓を打ち、心まで満たしてもらえるところうれしいです。今新しいメニューとして、餅米とハスの茎・実をハスの葉で包んで蒸し上げたハスおこわを出しています。ハスの実が栗よりもおいしいと好評なんですよ」とにっこり。ご主人と二人三脚でがんばる加悦さんです。

炭は心と体を癒す
「神楽の森から」

炭を暮らしに活かす

水や空気の浄化、室温の調整、調理、リラックス効果、ミネラル補給など、あなたの暮らしの中で、炭の活躍する場面は実に多い。若い人のあいだではインテリアアクセサリや、パソコンなどの電機被覆材にも使われる。自分流に炭のある暮らしを楽しむ時代が来た。

神楽白炭工房
〒669-5372 兵庫県豊後市1
TEL.0798-45-1115 FAX.0798-45-0026
<http://www.5nkansai.ne.jp/shop/tanuma/>
E-mail:tanuma@mea.5nkansai.ne.jp



蝶の紋がくっきりと赤い旗をはためかせ、急な坂をのぼって、平内神社へ行列は進む。

まの伝説

平家落人伝説が残る香住町御崎 一族の再興を願う「百手の儀式」

「祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり、沙羅双樹の花の色…」

『平家物語』に記された、栄華を極め、壇ノ浦の敗北で滅亡した平家の悲しい物語。そして、全国に残る平家落人伝説。但馬にも伝説の地は数多くあるが、その中でも香住町御崎に残る平家伝説は有名である。

御崎は余部から険しい山道づたいに約4キロ、日本海に突き出た岬の突端にある20戸ほどの小さな集落である。今では自動車で案に行けるが、かつては陸の孤島で、海からの交通が主流だったという。この地に伝わる、百手の儀式は平家落人伝説を抜きには語れない。

壇ノ浦の戦い(1185年)に破れた平家の武將たちは、海路隠岐、対馬へ逃れようと壇ノ浦から漕ぎ進めたが、日本海に出たから強いシケにあい、因幡と但馬の海岸へ押し流されてしまった。この御崎には、平家一門のうち、門脇宰相平教盛を大将とし、幼帝安德天皇の衛士の大將伊賀平内左衛門家長、その子光長、矢引六郎右衛門、小宰相の局など一行7人が漂着したと伝えられている。

一行が御崎のある伊笹岬の沖にさしかかると、山中から立ち上るひとすじの煙が見えた。船を岸(舟戸)に漕ぎ着け、煙を頼りに崖をよじ登っていくと、小さな庵に高野聖の森本浄実坊という修験者が修行をしていた。一行は森本浄実坊から小麦の蒸し物をクズの葉にのせてもらい、飢えをしのいだという。これが今日に続く、「小麦まつり」(日吉神社)の起源である。

その後、一の谷奥に門脇宰相が居を構え、東西2キロメートルを隔て、西方、平家崎に伊賀、東方、さんじ屋敷に矢引が住居を造り、万一追う手が迫れば、招き岩で陣貝を吹いて急を知らせ、軍議評定は、寄り合い島で会議し、軍事訓練は、馬場ヶ平(はばがへら)でおこなった。

武芸の鍛錬、一族の再興を願って儀式が始まったとされる「百手の儀式」は、毎年1月28日に氏神である平内神社でおこなわれる。当日、地区公民館に集まった御崎の人々は、近くで取ってきた竹で弓と矢をつくる。午後4時、かみしも姿の人々が平家の蝶の紋が入った赤いほり旗を持ち、「ひかえー、ひかえー、わきによれー」と唱和しながら、神社へ続く坂道を歩いていく。現在は普通の的になっているが、昔は



目を描いていたという的を境内の大イチョウに取り付け、門脇、伊賀、矢引の武士に扮した3人の少年が的めがけて、次々に100本の矢を射る。他にも、「陣ぞろえや、花あそび」などの行事もあったが、今はおこなわれていない。

海と山の御崎には、鎌をふるう平地はない。生活に困った平家の人々が神に祈願したところ、御崎にしか育たない平家蕪(かぶ)という特殊な蕪に恵まれ、食を補ったという。今日でも、平家蕪は御崎のこまかしこに自生し、春には黄色の花を咲かせる。平家の落人たちの思いが今に伝わる「百手の儀式」。時代が移り変わっても、矢を射る御崎の少年たちは代々伝説を語り継いでいくことだろう。協力：香住町観光協会

好きな心も着だけを募めました

- 神楽愛フルート・ディナーコンサート
11月11日(日) 要予約(姫路)
- ロイヤルコレクション
11月16日(金)・17日(土)・18日(日)
(姫路屋サンシャイン青山)
- 慰問展
12月14日(金)・15日(土)・16日(日)
(当店の間)
どうぞお気軽にお越しください

くまのサロンのために

● 毎月10日開催の「くまのサロンのために」

● 11月10日(日)開催

星岡町福岡1丁目7-1 電話 24-0239

フリーダイヤル 0120-529-008



心着展示会